

## 高齢者医療における降圧薬によるめまい発生の関連要因の検討

○関 将輝<sup>1</sup>, 岸本 桂子<sup>1</sup>, 福島 紀子<sup>1</sup>(<sup>1</sup>慶應大薬)

【目的】高齢者の転倒、骨折リスク軽減のため、降圧薬の使用成績調査データベースを活用し、めまい発生の関連要因の検討を行う。

【方法】対象をデータベース内における65歳以上かつ感覚器系疾患の合併・鎮痛剤の併用がない症例とした。①めまい発生までの期間の調査・時系列ごとの集計を行った。②めまい発生者をケース群、めまい非発生者をコントロール群とし、両群の投与開始日、めまい発生日、及びその差における血压値の比較をt検定、Mann-Whitney U検定により行った。③両群の患者情報について、条件付きロジスティックモデルを用いた単変量解析、多変量解析を行った。尚、統計学的有意水準を5%とした。

【結果と考察】①めまい発生までの期間は中央値14日、最頻値1日であり、降圧薬投与2週間以内、特に投与初日~1日目にかけて注意が必要と考える。②めまい発生日の血压値はケース群において有意に低下しており、めまいと急激な血压低下の関連性が示唆された。③めまいの関連要因として不整脈、脳血管疾患、呼吸器系疾患、解熱消炎鎮痛剤、血管拡張剤、血液・体液用剤といった、血流の乱れを引き起こす可能性のある疾患・併用薬が選択され、それらのオッズ比は1.957~3.023であった。

【結論】本研究では高血圧を有する高齢者について、めまい発生の時期や血压値を調査し、関連要因をオッズ比として定量的に示した。高齢者の服薬における経過観察として、降圧薬投与開始時のめまい発生に注意し、緩徐な降圧を行うこと。加えて、関連要因にあげられた項目を考慮した治療を提供することが、めまいや随伴する有害事象の抑制に繋がると考える。